

頼朝は知勇兼備の鬼武者

古 果から頼朝公に与えられたイメージは「冷厳な政治家」「武士というよりも政治家」といった類いではないでしょうか。劇化された判官びいきも加わりステレオタイプに助長されてきました。そのイメージは鎌倉そのものにも波及します。「頼朝＝冷厳な政治家」、これに「北条執権政治＝陰謀な権力闘争の幕者」も加わり鎌倉の印象はどうも暗い。ダイナミックな魅力に欠け、地味で暗い印象を与えます。

しかし頼朝という人類について、歴史を追いかけ時空を超えて想像力を働かせてみると全く違った景色が開けてきます。景色を聞くにはまずステレオタイプの頼朝像を一掃します。頼朝という人は、敵愾徹底「武威の人」です。いざとなれば野生の鹿の角を素手で掴んで押さえつける豪腕の持ち主です。頼朝派として京都の朝廷で活躍した九条兼実の日記「玉葉」にはこうあります「凡（おろよ）とて、そ頼朝のていたらく、威勢嚴肅にして、その性は強烈、成敗分明にして是非断然たり」。要するに武威を身に纏った堂々たる姿にして激しい気性の持ち主。常に正しき理にかなった判断によって物事を捌く男ということ。

戦 場においては騎弓を操り敵を屠殺させる武士人であり、荒々しい坂東の武者たちを従える武者の棟梁として、「武威の都 鎌倉」を創設した類い稀なる知勇兼備の名将「日本一の鬼武者」これが本書における頼朝像です。ステレオタイプの頼朝像からの脱却こそ頼朝と鎌倉を読み解く鍵であり、「鎌倉」のダイナミックな魅力を深く感

しく感じるために必要なことなのです。知 勇兼備の頼朝が政治力に優れていたことも事実です。内乱を戦った後白河上皇、木曾義仲や平家盛、源義経などと比しても卓抜しています。十代の前半まで京都の貴族社会で育ち朝廷の水に慣れていたことも京男たちとの間には大いなる力となったでしょう。鎌倉入りするとすぐに近代的な政治力を発揮した大江忠元を倒政として政治力に厚みを持たせるなど、特に朝廷に呑み込まれない配慮には余念がありませんでした。

鎌 倉を創るための政治的かけひきに一部分の犠牲もなし頼朝でしたが、最も重視したのは、武士と義。頼朝はいつでも武士であり武者の棟梁たる自らの武威に重きを置いていました。「武士というより政治家」であれば活躍の場は鎌倉でなく平清盛のように京都の朝廷が最適です。清盛の福縁のような場所を京都の近隣に築けばよいことです。頼朝にはそれを可能にする力は十分すぎるほどあったでしょう。

同 時代において、「政治力」(徳力を駆使する)といえは頼朝の死後に后白河院とされた美の北条政子です。鎌倉創成の根本、命の懸け引きを行う戦場には一切赴かず、夫(頼朝)、父(北条時政)、弟(北条義時)といった類い稀なる名將たちを近くに持つという「他人の武威による権力」を駆使し、武家政権成立後の鎌倉内の権力争いに本領を發揮していくわけですから、政治力のかなり抜きの使い方とはいえず、ステレオタイプの頼朝像とは近いものがあるでしょう。

武 士たちの戦場は命をやり取りする戦場です。この時代の武士たちは、太平の世である江

ことでしよう。彼らの絶対的な権威として君臨し統率する頼朝はさらによろしく深みの持ち主でなくてはなりません。圧倒的な武威を身に纏っていない「冷厳な政治家」を坂東武士たちが「武者の棟梁」と崇めるわけがありません。頼朝に類い稀な形容詞は「冷厳な政治家」などではなく自身の幼名「鬼武者」なのです。

鎌倉が選ばれた理由

源頼朝が武家政権をつくるにあたって鎌倉を選んだ理由は3つあるといわれています。①源氏ゆかりの地。②京内と東国を繋ぐ陸海交通の要衝。③三方を山に一方を海に囲まれた要害の地というものです。ここではわかりやすくするためもう一つ、④京都との距離感を加えます。

①「源氏ゆかりの地」 6ヘクトンに超過があるため詳細は省きますが、鎌倉は頼朝より遡ること4代、源頼朝(968-1048)に東郷氏ゆかりの地です。「源氏の都 京都」に対して「武威の都 鎌倉」を創設しようとするとき、武威の象徴として「源氏持統の血統」が必要であると頼朝は考えます。頼朝が武家政治の根として尊厳すべき先祖とした源頼朝(968-1048)が平清盛から譲られ、源家、源朝が拠点とした鎌倉こそ武蔵の都として相応しい土地なのです。

②「京内と東国を繋ぐ陸海交通の要衝」

日本全国を統括する政権を創るには陸海交通における要衝の地であることは必要不可欠です。当時、平清盛が大輪田泊(現 兵庫港)を支配し日

宋貿易により莫大な富を築いたように、武者の棟梁たちは商業経営のみならず物資の拠点を支配することにより一門の経済基盤を安定させていました。京都と関東、常陸の国までを繋ぐ日本の大動脈である東海道は、京都から海沿いを下り鎌倉を越え東と東海道へと出て海路を船越半島へと向かったそうです。鎌倉は京都と坂東、東北を繋ぐ陸海交通の要衝であったわけです。

日本は畿内を中心に西を抑えた者が支配してきました。それゆえ遠国である坂東と奥羽(陸奥、出羽)は朝廷の傘下にあるものの独立の気風が強い場所でした。古くは坂上田村麻呂、その後源頼朝、源家などが遠征軍を率いて奥羽を臣服させますがその度に覇者が現れました。独立を目指して私を起した常陸の平仲門、房総半島の平忠常はいずれも東海道上の東国を拠点としていました。

鎌倉入りした頼朝家の主力をなしたのは、伝統的に独立の気風が強い相模、安房、武蔵、信濃、伊豆、上野の武士でした。現在という神奈川県、千葉県、東京都、長野県、山梨県、埼玉県などです。1180年(治承4年)10月に鎌倉入りした頼朝は翌月11月には修竹斎義を遣はし常陸(現在の茨城県)を配下に加え、その後奥州藤原氏を滅ぼし陸奥、出羽を配下に加え、これにより頼朝は日本のほぼ東半分を握ります。1185年(文治元年)3月にはいまだ西日本に勢力を築いていた平氏を滅ぼします。

朝廷の影響力が遠く、朝廷からの独立気質を持つ関東、東北という広大な大地に根を張るには鎌倉は優れた拠点でした。さらに京都を利便して西国を握る際にも、気候の温暖な東海道を通じ

頼朝という怪物が成し得た
鎌倉という革新

戸時代の武士や鎧鎧を使用する現在の戦術と異なり、虚勢することない策馬を駆って至近距離において命の取り合いをしています。それはそれは肝の座った百戦錬磨の熟練しい武闘派たちであった

て京都とも連絡がとりやすい鎌倉は新しい武家政権にとって最適位置にありました。

③「三方を山に一方を海に囲まれた要害の地」 「鎌倉城」と表現するように鎌倉は天然の城のような地形をしています。最も高い山は鶴岡八幡宮の背後にある太平山(海拔159メートル)であり、高さはさほどではないものの峻険な城壁のように鎌倉を囲んでいます。頼朝の時代に鎌倉を攻められたことはありませんでしたが、1303年(元弘3年)に新田義貞が大軍をもって鎌倉を攻めた際には、極楽寺坂、化機坂、巨福呂坂の3方から攻撃してきた新田勢を一度は逃ね返し天然の要害ふりを発揮しています。

④「京都との距離感」

頼朝は新しい政権理念としての「武威の都 鎌倉」を創成するにあたり、京都の「君威」との距離感を最も大切にしています。有力御家人であっても頼朝に無断で任官(朝廷から官位を与えられたこと)することを厳しく戒め、これに反したものは激しく叱咤し憤恨させました。「吾妻鏡」1185年(文治元年)4月15日の項には、「功績なく、頼朝の推挙なく官職に任官していることを頼朝は愛い、厳しく戒めるとともにこれを犯した御家人は鎌倉に居ることを禁じた」という記述があります。頼朝の弟にして戦場においても京都の治安維持においても優れた手腕を發揮した義経が朝廷に助り込まれ最後は頼朝に対して兵を挙げたことはその好例です。京都の公家社会で育った頼朝にはそれがいかに「鎌倉」をなし崩しにし、武家の権威を失墜させることがよくわかっていたのでしょう。朝廷はことあるごとに頼朝の御家人に

源頼朝と歩く

鎌倉は1192年(建久3年)初めて武家政権が誕生した場所です。「鎌倉」を創ったのは希代の鬼武者、源頼朝(1147~1199)でした。それは実体としての都市であるばかりでなく、日本の統治構造、概念として様々な意味で創成されます。中大兄皇子(後の天智天皇)と藤原鎌足による律令制度確立から550年、武威の都「鎌倉」誕生は頼朝による天下創成でした。

甘縄神明御社

飛鳥時代が終わり奈良時代が始まった710年(和銅3年)、関東の古道、碓氷峠として鎌倉に住んだ委名神志が山上に神明宮を創建したことに始まる鎌倉最古の神社。源頼朝はこの社に祈願して軍事を授かり、義家も社殿を修復、頼朝も度々参拝しています。境内には安達長太郎の石碑があり、頼朝の名所でもあります。



〔住所〕鎌倉市長谷 1-12-1
〔アクセス〕江ノ電「由比ヶ浜駅」下車、徒歩10分
◎ 19p・C3

由比若宮

源氏と鎌倉のなれをゆえに現在に伝えているのが由比若宮(元八幡)です。頼朝から選んだ4代、頼朝が自らの血統の祖として崇めた源頼朝によって、源氏の氏神である武原の石清水八幡宮がこの地に勧請されました。頼朝は鎌倉入りするとすぐに現在の地に移し、立派な社殿を創建しました。以後、現在に至るまで800年以上もの間、鶴岡八幡宮は鎌倉の中心であり武家の守護神として敬われてきました。



前九年の役の後、奥州の覇者となっていた清原氏の内紛に介入した源義家は出陣に際してこの地に旗を立て戦勝を祈願したことから源氏山と名付けられたといわれています。後三年の役は奥州藤原氏をうむこととなり、藤原氏は頼朝により征伐されます。源氏による3度の奥州合戦により東国武士団と源氏の主従関係は確固たるものとなります。現在源氏山には源氏山公園、萬葉神社、化粧坂などがあり、種と紅葉の名所としても親しまれています。

◎ 19p・C2

東国を膝下に組織する源氏

義朝は上総御曹司と呼ばれ鎌倉市車ヶ谷(現在扇ガ谷)・寿福寺となっていた場所「に館を構えました。家(平正盛(清盛の祖父))によって討伐されると、義家死後の内紛も重なり源氏の勢力は衰退、平氏が台頭します。内紛を経て棟梁となった義朝は頼朝の父である頼朝を東国に送り地盤固めを託します。房総半島、三浦半島、相模など東国東部の有力武士団を固く組織し、下野、武蔵などに勢力を張る頼朝の源氏とも同盟を結び、北関東をも勢力圏におさめた義朝は東国を兵勇の養子に託し再び京へと戻り活躍します。

そしていよいよ「鎌倉」を創った鬼武者、源頼朝の登場です。頼朝は1146年(久安3年)尾張国熱田(現在の名古屋市熱田区)に生まれました。父は清和天皇を祖とする源氏の棟梁源義朝、母は熱田神宮大宮司藤原季範の娘由良御前という武家の棟梁として申し分のない血筋。幼名は鬼武者です。義朝は保元の乱(1156年)では崇徳上皇方について父を義らと袂を分かち、平清盛とともに後白河天皇方として勝利し正五位下、下野守、左馬頭となりました。

父義朝の活躍のなか、頼朝は熱田神宮大宮司藤原季範の娘を母としたことから三男でありながら嫡男として京で育ち1158年12歳で皇位宮権少進、1159年には上西門院藏人、從

源

氏と鎌倉の関係は源頼朝まで遡ります。頼朝の一族は清和天皇第6皇子、直純親王の子である源頼基(894~961)の孫、頼信(968~1048)を祖として頼義(998~1082)、義家(1003~1105)、為義(1096~1156)、義朝(1123~1169)に至ります。頼朝の時代、鎌倉を本拠地として関東に勢力を伸ばしていたのは頼朝平氏の平家方でした。平家門閥の乱となった平家方の乱(1028年)において討伐を命じられた直方は3年に渡って忠告を討つことができず、代わって遠征使となった頼信が忠告を待たせ坂東の祖武平氏を配下に組み入れます。後に頼朝の嫡母を左右した上総介広常(上総氏)や千葉常胤(千葉氏)は忠告の子孫にあたり、この時から源氏某代の家人であったわけでした。

直方は弓の達人として武勇の誉れ高い武人であった頼信の子頼義に自分の領を譲がせ鎌倉を譲ります。後醍醐天皇、鎮守府將軍となった頼義による奥州安徳氏討伐、前九年の役(1051~1062)の頃には源氏と東国武士団の陣出たる主従関係が築かれていたといわれており、鎌倉はその拠点となっています。頼義は山比ヶ浜に河内源氏の氏神である岩清水八幡宮を勧請し、鶴岡八幡宮の元となった由比若宮を創建(1063年)。義家は後三年の役(1083~1087)にあたって源氏山において戦勝祈願を行い、頼朝の父

平清盛

Taira-Kiyomoto

(1118~1181)

伊勢平氏として初めて昇殿し日東
實業によって富を築いた父忠盛の
跡を継いで平氏の絶頂期を築いた
名將。源氏源氏に逐まれ育ち、
頼朝の出陣街道を歩みます。保元・
平治の乱に勝利し武士朝の太政大
臣となり、一族の権力は日本の半
分にも及び、ついに後白河法皇
を幽閉。源氏の子の皇太子安徳天皇
を即位させます。しかしいささか
た専横は反感を招き治承・寿永の
乱が勃発。平氏打倒の軍兵が続く
なか戦死します。享年64歳。



藤原為信による南北朝時代の絵巻、
『天子御間御影』の平清盛。

後白河法皇

Goshirakawa-Hoosho

(1127~1192)

鳥羽天皇の第4皇子として生まれ
た平安時代末期の第71代天皇。そ
の治世は保元・平治の乱、平氏の
興隆、治承・寿永の乱、鎌倉幕府
成立という激動の時代でした。今
様狂い(天子の御にあらざる)など
諷刺する記録が散見されるものの、
清盛・頼朝による二度の幽閉・院
政停止を乗り越え、頼朝と連り合っ
て皇都と鎌倉との関係を築いた足
跡は後世の歴史に大きな影響を与
えました。享年66歳。



藤原為信による南北朝時代の絵巻、
『天子御間御影』の後白河法皇。

木曾義仲

Kiso-Yoshinaka

(1154~1184)

頼朝と同じ河内源氏の一族、源義
賢の次男で頼朝の従兄弟にあたり
ます。頼朝と同じく以仁王の令旨
を受けて平氏、源氏、平氏、源氏
に平氏を破って上洛しました。京
都を制したものの頼朝と内乱に
よる頼朝の治安維持に失敗。皇位継
承への介入などから後白河法皇と
決定的に対立。後鳥羽天皇と後白
河法皇を幽閉し従軍大將軍として
復讐を目指すものの、頼朝が派遣
した鎌倉軍に敗れ討たれます。享
年31歳。



藤原為信による南北朝時代の絵巻、
『天子御間御影』の木曾義仲。

藤原秀衡

Fujiwara-Hidehira

(1122~1187)

奥州藤原氏第3代当主。鎮守府将
軍、陸奥守。奥州藤原氏の最盛期
を築いた名將。広大な出羽・陸奥
両国を支配し、坐や名馬、貿易に
よる莫大な財力は平泉を平安京に
次ぐ大都市に育てました。頼朝や
平氏とも友好関係を築き頼朝を離
うことで藤原とのパイプも確保。
頼朝の奥州進出を阻害し、「義経を
大将として頼朝にあたれ」と遺言
しますが後を継いだ義経は義経を
殺害。結局は頼朝の文書に敗れ義
経は討ち取られます。享年65歳。



毛越寺に残る藤原秀衡像。

ライバル達を凌駕していく、鎌倉殿 頼朝

木

年) 7月、京都を制圧し平氏
は安徳天皇と三種の神器を奉
じて都落ちします。義仲は皇位継承開
選への介入や京都の治安維持の失敗な
どから次第に立場が悪化。対して頼朝
は、平氏横領の院宣預及及び寺社頭の返
還などを約束し朝廷を善後させます。頼
朝は京都を操らずして鎌倉政権の創成
は確しいことを熟知していました。10
月には寿永2年10月宣旨が下され、東
海・東山街道(東国)の支配権を得ます。
朝廷と決定的に対立した義仲は
1184年(元暦元年)1月、源頼
朝・義経を大将とする頼朝軍との宇治
川・粟津の戦いに敗れ討ち取られま
す。頼朝軍は続いて平氏追討へと向か
い、2月一ノ谷に平氏を破り京都を義
経に守護させ頼朝率いる大手軍を鎌倉
へと戻します。8月には再び頼朝を大
将とする平氏追討軍が鎌倉を出発。頼
朝軍は正面から義経が攻め、頼朝が平
氏の退路を断つように九州へと上陸
1185年(文治元年)3月24日壇ノ
浦の戦いにおいて平氏を滅亡させま
す。4月11日、父義朝を弔うために建
立していた南御堂(善長寿院)立柱の
儀を行う頼朝の手に平氏追討の知らせ
が届きます。それを聞いた頼朝は頼朝
八幡宮の方角を向き感無量のまましは
らく黙って座っていたと伝わりま

乱

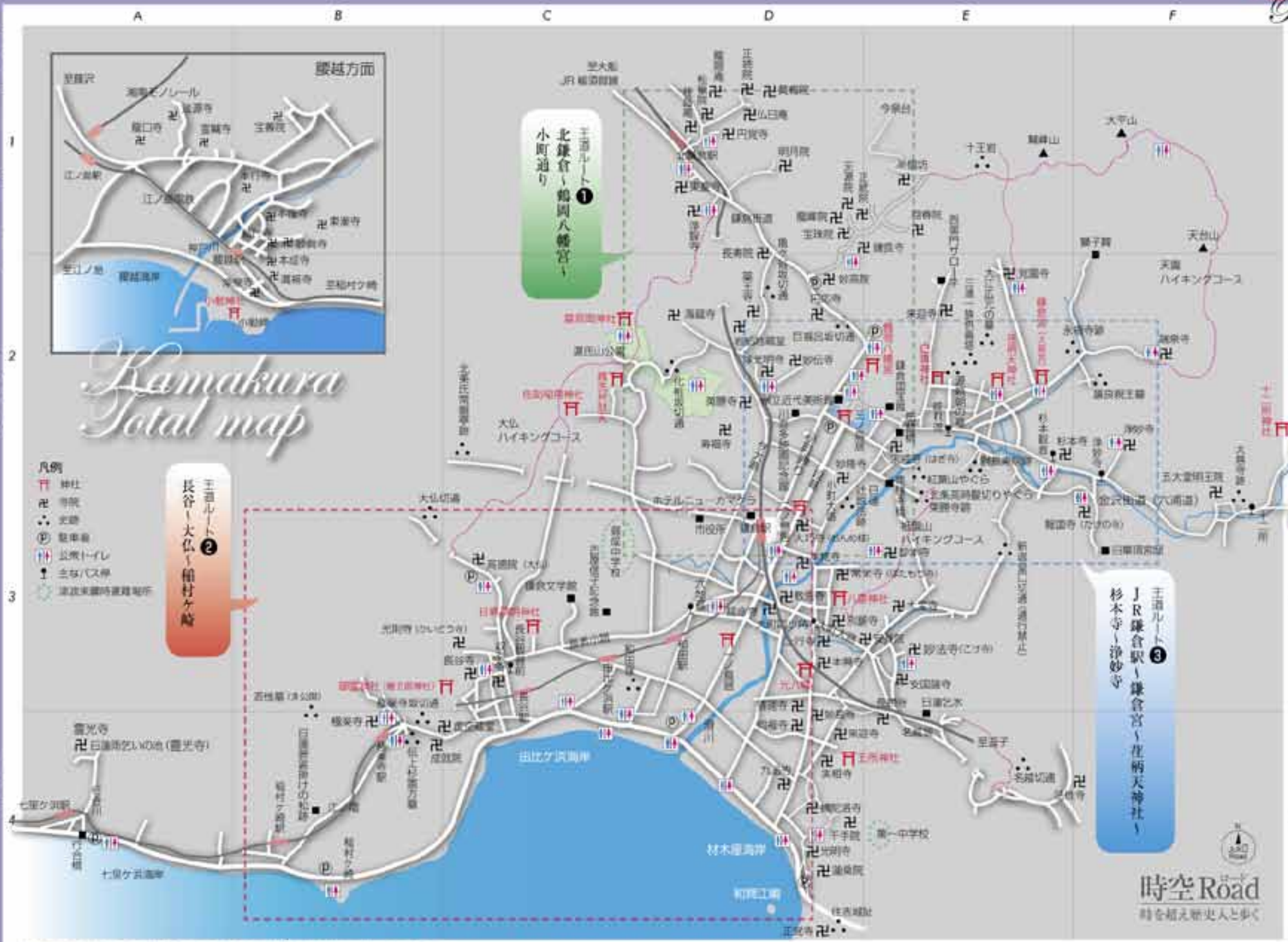
世の恨は深く、今度は源義
賢の弟義経と叔父の行家が
頼朝に対して暴兵します。
1184年頃から義経の軽率な言動
が目立つようになり、頼朝は無
断で任官したり平家追討の功を我が
ものと吹聴するなどします。そして
その隙を後白河法皇と朝廷につけ込
まれます。1185年10月、頼朝に
夢想を尽かされた義経は後白河法皇
から頼朝追討の院宣を得て平兵士
ものついでにくる者はほとんどい
ませんでした。逆に義経、行家追討の
院宣が下され、頼朝が同月29日に義
経・行家討伐のため軍を率いて鎌倉
を出発すると、これを聞いた義経は
早々に都から逃亡したため頼朝は鎌
倉へと戻ります。1186年(文治
2年)5月行家は和泉国において討
ち取られ、義経は藤原秀衡を頼り奥
州平泉へと身を寄せます。

守

護・地頭の設定は「鎌倉」に
とって大きな契機でした。
1185年11月12日、頼朝は
大江広元と計り守護・地頭の設置を朝
廷に申請。直後の15日には義経に加盟
していた院近卫基隆の使者が鎌倉
に到着。頼朝は「日本第一の大夫卿は、
決して地の者ではない」(後白河法皇で
ある)と一喝し、29日には守護・地頭

鎌倉を俯瞰する

トータルマップ
この地図は全ページの春正ナンバリングとしており、鎌倉の神社・寺院や史跡の位置関係にお役立ていただけます。



Kamakura Total map

- 凡例
- 神社
 - 寺院
 - 史跡
 - 駅
 - バス
 - その他

王道ルート②
長谷・大仏・鶴岡八幡宮

王道ルート③
JR鎌倉駅・鎌倉宮・在願天神社・杉本寺・浄妙寺

時空Road
時を超え歴史人と歩く

©2015 Road. All rights reserved. 鎌倉散歩 Route. 鎌倉散歩 Route. 鎌倉散歩 Route. <http://kamakura-guide.jp>

鎌倉散歩



円覚寺 ▶ 18p・D-1



報国寺 ▶ 18p・F-3



源氏山公園 ▶ 19p・C-2



円覚寺 ▶ 18p・D-1

円覚寺
 【住所】鎌倉市山ノ内409
 【TEL】0467-22-0478
 【拝観】8:00～17:00(11～3月は18:00まで) / 300円
 【アクセス】JR「北鎌倉駅」下車、徒歩1分
 総門へと向かう階段から美しい紅葉が溢れてくられます。三門を抜けて、最も奥の真経院にいたるまで随所に新やかに秋が色づきます。さすが鎌倉が原点を辿って建立された鎌倉五山第二の寺院を得つ大寺院。巨大な境内に基ぶ大小30近い建物と塔。そこに点在する様々な趣の紅葉の中から、お気に入りの景色を見つづけるのは大寺院ならではの楽しみではないでしょうか。



東慶寺 ▶ 18p・D-1

東慶寺
 【住所】鎌倉市山ノ内1267
 【TEL】0467-23-5100
 【拝観】8:30～17:00(11～2月は18:00まで) / 200円
 【アクセス】JR「北鎌倉駅」下車、徒歩3分
 かつて女人僧尼の聖地と知られた東慶寺。その昔、唯一の聖い聖地とされた女性達ほどな気持ちでこの新やかな紅葉を見たのでしょうか。お寺までお目に美しい紅葉が緑かに色づきます。



源氏山公園 ▶ 19p・D-2

源氏山公園
 【住所】鎌倉市源氏山4-7-1
 【アクセス】JR・江ノ電「鎌倉駅」より徒歩20分
 源氏山公園と大仏ハイキングコースの交差点から、かなりボリュームのある紅葉が見られます。鎌倉材木場からではなく、北鎌倉からのルートをとれば北鎌倉の紅葉も楽しめます。北鎌倉近くにある海蔵寺も紅葉の名所です。



建長寺 ▶ 18p・E-1

建長寺
 【住所】鎌倉市山ノ内8【TEL】0467-22-0961
 【拝観】8:30～18:30/300円【アクセス】JR「北鎌倉駅」下車、徒歩15分
 鎌倉五山第一の名刹を冠せさせる濃厚な大伽藍とともに楽しむ紅葉は絶景。建長寺は武家政権が日本の中心となった高麗に建立された最初の禅寺です。千回から蘭漢語を習得し華光の神文化の中心地として建長寺は建立されました。開基の北条時頼が日本一の権力者となった実業家を持って紅葉を眺めたいのでしょうか。



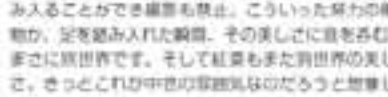
明月院 ▶ 18p・D-1

明月院
 【住所】鎌倉市山ノ内189
 【TEL】0467-24-3437
 【拝観】9:00～18:00/300円(8月は8:30～17:00/500円)
 【アクセス】JR「北鎌倉駅」下車、徒歩10分
 趣深い境内に建てられているため、左右から包み込まれるような紅葉が味わえます。まらかに豪華な寺院の雰囲気と同じように紅葉も美しい。個性のイメージが強い本寺の個性が紅葉とあいまって参拝者を穏やかな気分させてくれます。



瑞泉寺 ▶ 18p・F-2

瑞泉寺
 【住所】鎌倉市二階堂710
 【TEL】0467-22-1131
 【拝観】8:00～17:00/200円【アクセス】JR・江ノ電「鎌倉駅」より徒歩10分
 梅、桜、紅葉とどれも楽しめるのが瑞泉寺のよさ。境内に入るとすぐ、参道正堂と至平の山が色づいており、秋の気配が爽やかです。参道を進んで行くとお手前の竹林にかかるように紅葉が色づき、山門付近がピーク。山門を渡うようにしてまやりに咲く紅葉が印象的。



覚園寺 ▶ 18p・E-2

覚園寺
 【住所】鎌倉市二階堂421
 【TEL】0467-22-1195【拝観】10:00～16:00(11月期間に限り) / 500円(参拝堂までは随時拝観) / 8月(奥の院は別料金)、12月20日～1月7日は休み【アクセス】JR・江ノ電「鎌倉駅」より徒歩10分
 特別参拝が再建した本堂をいまでも受け継ぐ覚園寺。境内の人数は1時間おきに寺前の案内によってのみ入ることができ座席も禁止。こういった案内の厳格さ、足を踏み入れた瞬間、その美しさに息を呑む。まさに天国世界です。そして紅葉もまた天国の美しさで、きっとこれが中世の醍醐味なのだろうと思ってしまう。

中世の武士たちも
 鮮やかな紅葉に
 癒されたことでしょう

※写真の番号は「10～10ページ」の「ツールマップ」にリンクしています。
 ※ウェブサイトの詳細は「鎌倉タイム」をご覧ください。 <http://kamakura-guide.jp>

